

第 15 回 みたけ創生有識者会議 議事録

日 時	令和 5 年 7 月 11 日(火) 10:00~12:15	
場 所	本庁舎2階 第1委員会室	
委員	出席	奥村委員(glass studio 三日月) 恩田委員(可茂県事務所) 後藤委員(御嵩町金融協会) 小林座長(岐阜大学) 長尾委員((株)ケーブルテレビ可児) 正木委員((株)ジェイテクトギヤシステム) 計 6 名
	欠席	齊藤委員(荻須学園) 計 1 名
事務局	御嵩町役場 企画課	各務総務部長 田中企画調整担当参事 山田企画課長 安藤企画調整係長 遠藤企画調整係員
関係課	まちづくり課 環境モデル都市推進室	瀬瀬まちづくり推進係長 長谷川環境モデル都市推進室副室長

■会議進行

○挨拶	
山田課長	<p>改めまして、皆様おはようございます。定刻となりましたので、ただいまから、第 15 回みたけ創生有識者会議を開催いたします。私、企画課長の山田が司会を務めさせていただきますのでどうぞよろしくお願いいたします。なお、本日齊藤委員はご欠席でございます。</p> <p>はじめに、資料を確認させていただきます。</p> <p style="text-align: center;">～配布資料の確認～</p> <p>それでは開会にあたりまして、町長よりご挨拶を申し上げます。</p>
渡辺町長	<p>皆さん、改めましておはようございます。お忙しい中、このみたけ創生有識者会議にご参加いただきましてありがとうございます。御嵩町の将来を見越してこの会でのご意見をお聞きしながら町政を進めていきたいという主旨に沿って、日頃から皆様にご意見をいただいておりますこと、感謝申し上げます。</p> <p>初めての場になりますので、少し自己紹介させていただきたいと思っております。7月5日より、町長として勤務しております。前職は県の職員として37年間務めさせていただき、令和5年3月31日に退職して以降はこちら</p>

で活動しています。

御嵩町の井尻地区に住んでおり、県庁までは往復 100km、2 時間半ほどかかるのですが、こちらから毎日通勤していました。何故かと言えば、御嵩町に住み色々な活動拠点にしているため愛着があり、何か恩返しをしたいという気持ちがあったからで、それがこういった形に落ち着いたのだと思っています。

今回の選挙戦にあたって「好きです！みたけ」というキャッチフレーズを作らせていただき、この町が好きだからどうにか良くしたい、というところからスタートいたしました。選挙戦を思い返しますと、色々な方から色々な意見を言われました。例えば奥村委員のように上之郷地区在住の方であれば、「担い手が見つからず自治会が崩壊寸前だ」、「自分がいなくなってしまったら誰がこの地域を担っていくんだろう」と懸念される方が多かったです。昨今、御嵩町にも色々と重要課題がありますのでそういった課題を解決することは勿論大事なのですが、「早く混乱した状況から平穏な町に戻して欲しい」、「豊かで幸せに暮らしたい」、という意見は非常に多く、そうした様々な意見が聞こえてくるものですからこういった意見は大事にしなくてはいけない、という思いで対話重視の姿勢を打ち出し、今後の町政を進めていこうと思っています。そのねらいとしては、御嵩町へ如何に人を呼び込むかということです。移住とまではいかなくとも「気になる町だな」、「行ってみたいな」と思う関係人口を増加させる、ということと、町民に対し本当に誇りを持ってこの町に住んでいるのかどうかを問う、という 2 点を大きく掲げ、進めていきたいと考えています。

また手法は色々ありますけれど、御嵩町のファンになっていただきたいということで色々なアプローチ、プロモーションをかけていきたいとも思っています。それは外から御嵩町を見た人たちを誘客することと、御嵩町内に住んでいる人たちが誇りを持つため自分たちで特産品や特徴などを作り出していく、という 2 つの方向性へつながっていくと考えています。

いずれにしても戦略等の計画年次に入っている中で、強く言われているのが「人づくり」だと思っています。担い手も含め、「この地域を良くしていこう」、「この地域に根差して地域を発展させていこう」という方々を多く招き、或いは意識し続けることで、御嵩町に住み続けていただき、御嵩町が更なる発展を遂げていくようにしていきたいと思っています。5 年後、10 年後のスパンで見た時、子供たちや若手世代が住み続けたいと思える町政運営を考えると、それには事務をこなすだけでなく、ビジョンや夢が必要になってくると思います。そういった幅広い視野を持ってご意見をいただければ今後の参考になるかと思しますので、そんな前向きな意見等も含め、この会議が活性化されることを祈っております。よろしくお願

	<p>いたします。</p>
<p>山田課長</p>	<p>続きまして、委員委嘱に移ります。今回の会議が新たな任期での第1回開催となりますので、委員の皆様方へ委嘱書を交付いたします。全員の方が前任期からの継続となるため、略式ながら机上への交付とさせていただきますので、何卒ご了承ください。</p> <p>続きまして、委員・事務局紹介に移ります。委員の皆様から簡単に、所属とお名前程度で結構ですので自己紹介をお願いいたします。名簿の上から順に奥村委員から、お願いします。</p> <p>～各委員自己紹介～</p> <p>続きまして、事務局の紹介をさせていただきます。</p> <p>～事務局紹介～</p> <p>また、本日は事業実施に関わった部署から、まちづくり課まちづくり推進係長の瀬瀬、環境モデル都市推進室副室長の長谷川が出席しております。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、町長はここで退席とさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p> <p>続きまして、座長・副座長の選出に移ります。当会議の規定に基づきまして皆様の互選により決定したいと思います。特にご発言は無いということによろしいでしょうか。それでは事務局より推薦させていただきます。事務局案といたしまして座長を小林委員、副座長を齊藤委員をお願いしたいと考えております。事務局案でよろしければ皆様の拍手をもってご承認いただきたいと思います。如何でしょうか。</p> <p>～拍手～</p> <p>ありがとうございました。それでは座長を小林委員、副座長を齊藤委員をお願いいたします。齊藤委員は本日欠席のため、後日事務局より就任をお願いします。それでは小林座長、座長席へ移動をお願いいたします。</p> <p>それでは議事に移ります。本日の出席委員数は6名と過半数であるため、本会議は成立しております。なお議事の進め方については次第のとおり、まず1つめの議事として「令和4年度地方創生推進交付金事業の効果検証等」について昨年度の実績報告を行ったのち、皆様からのご意見を伺います。</p>

	<p>続きまして「令和 5 年度地方創生関連事業の実施概要」について事務局から説明を行ったのち、皆様からのご意見を伺います。</p> <p>最後に、地方創生関連事業の骨格部分である「みたけ創生!!総合戦略(第 2 期)」について、令和 4 年度分の効果検証を行っていただきます。皆様には、何卒忌憚のないご意見をいただければと思いますので、よろしくお願いたします。</p> <p>規定により会務については、座長に努めていただきます。小林座長、よろしくお願いたします。</p>
--	--

○議事 1.	
小林座長	<p>昨年度に引き続き座長を務めさせていただきます、小林です。拙い議事進行になりますけれども、皆様、議事進行へのご協力お願いたします。</p> <p>まず議事 1.「令和 4 年度地方創生推進交付金事業の効果検証等」について、事務局から説明をお願いします。</p>
安藤係長	<p>それでは事業ごとにご説明いたします。</p> <p>～資料 1～2 に基づき説明～</p>
小林座長	<p>ありがとうございました。それでは委員の皆様から事業ごとにご意見いただきたいと思ひます。</p>
・ IT プログラミング人材育成事業	
小林座長	<p>令和 4 年度までの事業方針ではインフルエンサーの育成によって町の魅力を広める、とあったかと思ひますが、この事業は同じ IT でも IT プログラミング人材育成ということで、インフルエンサーの育成とは少し位置づけが異なるということでしょうか？</p>
安藤係長	<p>IT やプログラミングの技術を用いて情報発信ができる人材を育成する、という観点から、インフルエンサー育成にもつながっていくということです。</p>
小林座長	<p>ご説明ありがとうございます。もう 1 点お聞きします。</p> <p>アプリが 4 つ作られています、これは全て御嵩町に関係するものでしょうか？アプリに御嵩町の色が出てくることは良いことだと思ひますが、「必ず御嵩町の色を出しなさい」というのは参加する高校生の足枷にもなってはいないかと思ひました。例えば、作るアプリが御嵩町らしさから逸れてしまったとしても、「こんなすごいアプリを作れるプログラマーが御嵩町にいるの？」という方向性で御嵩町の名前が広まっても良いのではないのでしょうか。</p>
安藤係長	<p>事業の設定として先端技術によって高校生たちの成長を図るということも勿論あるのですが、合わせて地域学習、地域のことを知るといふ側面</p>

	<p>もこの事業では重要視しています。高校生にとっては枷となったかもしれませんが、先端技術を学ぶだけでなく、御嵩町の魅力を知ってそれを学習内容に活かす、という事業の方針を設定しています。</p>
小林座長	<p>この講座には何人くらい参加されたのですか？あと、こういったアプリを作るのはひとりで全部やってしまうのでしょうか？それとも数名のグループでやっているのですか？</p>
安藤係長	<p>全員で 20 名参加しており、1 チーム 5 名で制作していました。</p>
小林座長	<p>では参加者全員で手を動かして完成させた、ということなんですね。ありがとうございます。他にどなたか、ご意見ありませんか？</p>
長尾委員	<p>去年も同じような話をした覚えがあって恐縮なのですが、この事業で学んだスキルを役立てることのできる場所があるとか、どれくらいの人がそういった場所に就職したとか、また御嵩町には無いにしても通勤圏の企業で就職することができたとか、事業をやったということは分かるのですがその効果がどのような形で表れているのかということが、この資料では目に見えて分からないなと思いました。あと、高校生が作ったアプリも 4 つできたことは分かりますが、そのあとどうなったかが分かりません。本来の事業目的というのは「こんな事業をやりました」のその先にあると思います。そのあたり、実際のところどんな成果があったのかというところが気になります。</p>
安藤係長	<p>人材を育成する事業である以上、長期的なスパンで成果が出てくるのを期待する形になりますので、この場で具体的な事業成果をお話しすることは難しいのですが、プログラミング講座を担当した(株)タイムカプセルに、講座を受講した高校生が就職したという成果はあります。ただ、その子たちが御嵩町で起業する、というような面についてはまだ弱く、IT 企業に就業しやすい環境や IT 企業自体が御嵩町に参入しやすい環境などといった土台作りに手をつけられていないという現状があります。この事業の成果と密接にリンクするような土台作りが今後必要なものと考えています。</p> <p>制作したアプリの活用に関しては現在まだ審査中ということで、まだダウンロード件数などが把握できる状態ではありません。今年度からの活用検討としましては、本会議で議論されている「幼少期から一貫して地域に関わる」という観点を重視したいということもあり、小・中学生に教材として配布されているタブレット端末でも使えるものを制作する予定です。高校生が制作したものを小・中学生が使う、という形にすることで、ただ作っただけで終わらないような目に見える効果を創出できるよう考えています。</p>
小林座長	<p>長尾委員の言われていることは本当にそのとおりで、人材を育成したきりで終わってしまったのは外部に流れていくばかりで御嵩町としては非常</p>

	に勿体ないことになってしまうので、是非これからはアウトカム、育成後のフォローアップも検討して欲しいと思います。勿論時間のかかることというのもその通りでなかなか難しいこととも思います。
恩田委員	地元企業側のニーズというのはどうなっているんだろう、というところが気になります。この事業と企業側のニーズが合致していれば良いのですが、育成をしても働く場所が無いというように噛み合っていないところがあると地元の人材確保は難しいように思います。企業側のニーズ調査などはされていますか？
安藤係長	ニーズ調査は行っておらず、IoT、AI を活用している事業者数程度であれば把握しています。おそらくそのあたりにニーズがあるのだろう、と目星はつけているのですが、実際その企業を訪ねて「こんな人材欲しいですか」と聞く、というようなところまではできていないのが現状です。
恩田委員	地元が無いから町外の企業にこういった講座を委託しているのだろうとは思いますが、もう少し企業側に入り込んでいくともっと良い事業になっていくのではないかと、思います。
小林座長	なかなか雲を掴むような話で難しいところはあるかと思いますが、企業側とのミスマッチ解消も視野に入れていていただきたいと思います。
後藤委員	<p>色々な企業の経営者と話をすると、ニュースで人手不足による廃業・倒産が取り上げられるように、とにかく人手が足りないという問題をどの企業も抱えてみえます。そこで実際どんな人材が求められるのかというと、高齢化した技術者を継承できる人材で、そういった人材がなかなか入ってこないそうです。企業側のニーズを聞き出していく中で、「我が社はこんな技術を持っていて、インターンでも何でもやるので興味のある人は是非来てください」という流れになって、それに興味のある人が興味を持って地元企業への就職、定着につながるかもしれません。インフルエンサー育成という点で言えばこの事業は大事だと思いますが、企業側のニーズも踏まえた要素もそれにプラスしていければ良いのでは、と思います。</p> <p>IT 企業であればどこであっても働ける側面があり、御嵩町にワーキングスペースを設けるなどして起業を支援することもできると思うので、そういった流れと合わせて地元企業への定着を進める流れも作ってけると良いのではないかと思います。</p>
小林座長	例えば先ほどの小・中学生が使うアプリを高校生が作るというところでは、起業に向けた練習課題というようにところに位置付けて企業側から安価で受講生に発注してみるなど、定着を見据えた仕組みづくりを考えてみると良いのかもしれないと思います。
正木委員	<p>当社でも単純作業などは自動化が進んでおり、今後の需要は高いと思います。</p> <p>御嵩町は自動車関連の企業が多いので、実際に手を動かして何かを作っ</p>

	<p>てみる、例えば他の場でやらせてもらったのはプラモデルのようなものを作って機械の仕組みに興味を持ってもらうと将来の技術者育成に繋がって、御嵩町内の企業はありがたいんじゃないかと思います。</p> <p>これまで国内の人材を採用していたのが外国の人材を頼らざるを得ない状況になったり、企業側から見た採用状況は非常に厳しい状況です。また人材派遣会社などの話を聞くと、岐阜県は愛知県と比べロケーション的に不利なところもあるようで、愛知県の方に人がいきがちな現状です。現在当社では様々な地方の出身者が働いていますが、そんな中でも九州方面から来られる人たちというのは特に地元志向で、何年か経つと「九州に帰りたい」と言われる方が多いんです。どうしたらそうできるのかははっきりとは分からないのですが、御嵩町は素敵な町なので、「御嵩町に帰りたい」と思う人を育てられたら良いなと思います。</p>
小林座長	<p>私の職場の話をさせていただくと、最近工学系の就職状況は非常に良くなっていて、企業側からすれば取り合いのような状況です。また、工場などでも人手不足から生産ラインそのものを自動化、ロボット化していこうという動きも進んでいて、大学と企業で協働してそういったことへの研究も進めています。</p> <p>私の職場の学生たちには岐阜県から出たくない、どうしてもこの地域に残りたい、という、非常に狭い世界の中での地元志向が多いです。そんな中で一旦外に出ていくんだけれど、そこでスキルを身に付けて将来的には地元に戻ってきてそこで事業を継続していく、そんな人材の卵を育てる事業として進めていくこともひとつの手だと感じました。</p> <p>自動化によるクオリティ・効率の追求が進む一方で、奥村委員のような手作りの仕事の魅力もあり、これから更にこの二極化が進んでいくと思います。</p>
・体験型キャリア教育事業	
正木委員	<p>協力企業として参加させていただきましたが、紙での発表が動画になるなど、進化しているなと感じます。生徒への受け答えを年配の社員がしていて少し噛み合っていないな、と思うところもあったため、今後は若手社員に出てもらおうと思っています。年齢層の近い社員と話すことで「こんな人とだったら一緒に働いてみたいな」と思わせるような工夫をこちらも考えないといけないな、と思いました。</p>
長尾委員	<p>この事業の対象は高校生で、その子たちがキャリアについて学ぶことが目的だと思いますが、資料の事業概要を見ると「自社の魅力を発信する力を育てる」という企業目線の目的も書かれています。この企業側の目的については何か取り組みがあるのでしょうか？</p>
安藤係長	<p>企業に向けて明確なアプローチを行った訳ではありませんが、高校生と協働して企業 PR 動画を作る、という主旨を伝えた上で事業を進めました。</p>

	<p>これまでは紙で行うため受講した生徒間でしか共有できなかった成果のまとめが動画として広く公開されるようになったため、先ほど正木委員が言われたように「それならこちらもこういうことを考える必要があった」という、発信すること、教えることについての気づきを企業側が得るきっかけにはなったと思います。実際、他の協力企業からも振り返りの声を幾つかお聞きしました。</p>
長尾委員	<p>企業の情報発信をこの事業の中でやりたいと思っているのであれば、意識的に事業内容に盛り込んでいかなければいけないと思います。企業側がこの事業にそれを本当に求めているのか、「高校生を受け入れなければ」という姿勢になってしまっていないか、というところが気になりました。単に資料の書き方が間違っているのか、資料は正しいけれど事業の内容として実施できていないのか分かりませんが、その辺りは整理が必要かと思えます。</p>
小林座長	<p>こういう事業は企業・学生どちらにとってもチャンスだと思うのですが、親がいざ名前を聞いて知らない会社だとなると、その時点で親に理解されない、最終的に子どもの方が折れてしまうということが多いためです。親世代へのアピールも検討要素なのかなと思います。 東濃高校は町外から通う生徒が多いのでしょうか？</p>
安藤係長	<p>半分より少し多い程度かと思えます。</p>
小林座長	<p>そういう生徒に地域の魅力を発信して将来的に関係人口として御嵩町へ関わってもらうための大事な事業かと思えます。</p>
恩田委員	<p>高校生の採用は学校側に左右されるところも大きいので、親世代に加えて教員へのアプローチも非常に重要だと思います。現時点で何か取り組みなどはされていますか？</p>
安藤係長	<p>現時点では行えていません。</p>
恩田委員	<p>是非ご検討いただければと思います。</p>
小林座長	<p>昨今はいわゆる買い手側が、売り手側へお願いしに何うというのが実情かと思えます。行政の立場でそういったマッチングの場を設けるということは難しいかもしれませんよね。 高校生にとって先生の意見はすごく重要だと思います。御嵩町は BtoB 企業が多いと思いますが、そういった企業が実はすごいことをやっているんだという側面を学校側にもっと伝えられたらと思います。</p>
<p>・外部人材招聘事業</p>	
小林座長	<p>実施場所が御嵩町でなく全て関ヶ原となっているのは何故でしょうか？</p>
瀬瀬係長	<p>可児才蔵が最も活躍したのが関ヶ原の合戦ということもあり、取っつきやすさや観光資源の豊富さ、またイベントによっては市町村を PR できる場もあったことなどから関ヶ原が中心となっています。講座の回数も少な</p>

	<p>かったことから御嵩町を舞台にツアーを行うのが現実的でないというところもありました。</p>
長尾委員	<p>参加者の中で、これを機会にガイドをやるようになった方や、偲歴会に加入される方というのはいたんでしょうか？</p>
瀬瀬係長	<p>参加者と偲歴会との交流は続いていますが、偲歴会に加入されたかどうかまでは現時点で把握できていません。</p>
長尾委員	<p>偲歴会も含めて、ガイドをやりたいという方はいるのでしょうか？</p>
瀬瀬係長	<p>昨年度事業が完了したばかりなのでまだこれから、というところですが、基本的には偲歴会が現在行っているガイドに便乗する形で実践できないかと考えています。</p>
奥村委員	<p>可児才蔵に興味を持った町外の方が「御嵩町に行ってみよう」となった時、こういった場所を案内するのが良いのでしょうか？</p>
瀬瀬係長	<p>願興寺が最もゆかりのある場所なので、改修が完了すればまず第一には願興寺になると思います。ただ、「可児才蔵ゆかりの場所」だけでは厳しいところがあるので、可児才蔵をきっかけに御嵩町へ来てもらい、そこから御嵩町の魅力あるスポットに触れてもらうというプランを考えています。</p>
<p>・みたけのええもんを媒体としたシティプロモーション事業</p>	
小林座長	<p>キャラバンの売り上げを見ますと可茂県事務所での売り上げが群を抜いて高いのですが、何か工夫されたのでしょうか？</p>
田中参事	<p>昨年度は、舩越山茶を生産している上之郷中学校生徒たちが茶摘みの衣装を着て販売したのですが、庁舎内の各事務所を生徒たちが訪ね、お茶の試飲を勧めながらキャラバンの案内をしたところ、沢山の方に買っていただくことができました。</p>
恩田委員	<p>私も可茂県事務所と関ヶ原でのキャラバンに参加したのですが、生徒が茶摘みの衣装で試飲を行っていたのは非常に好評だったと思います。ただ、こういった場に作り手の参加が少ないことはとても残念だと感じます。こういった場に作り手が出て来てくれるところは、現地での反応が作り手に直接届いてどんどん商品がブラッシュアップされていくので、積極的にこういった場に出て来ていただければと思います。</p>
長尾委員	<p>昨年もお話はあったと思うのですが、なかなか改善に至っていないと思います。シティプロモーションと言うより「物産展」に終始しているように思えて、外に対するアピールが弱いのではないかと感じるので、物を売るのだけではなく、観光や移住なども含めてシティプロモーションを考えた方が良いのではと思います。</p>
各務部長	<p>過去に都庁などでの催事に参加していた頃もあったのですが、そこではただ「売れた」だけで完結してしまっていたことがありました。まず地元での知名度を強化してからの遠征でないかと本末転倒ではないか、という反</p>

	省から今のやり方につながっています。ただ、長尾委員の言われる通り本来のシティプロモーションの意味から離れているというところもあるので、そこの兼ね合いは考えたいとも思っています。
長尾委員	「物を売る」以外のところで、御嵩町ならではの何か良いアイデアがあると良いなと思います。
小林座長	御嵩町に限らず岐阜県全体で抱える課題だとも思います。
奥村委員	キャラバン活動などの先には「御嵩町の魅力をもっと知ってもらおう」という目標がある筈です。「ええもん」は物でなく、作り手が技術とアイデアを費やして作り上げたことそのものが「ええもん」で、それを通して伝わる「こんな面白いことを考えている人が御嵩町にはいますよ」という事実が御嵩町の魅力に繋がっていくと思います。それを人に伝えるため、単純なものの消費で終わらないようにするためにも、作り手をもっと販売の場に出ていくと良いと思いました。
小林座長	商品にストーリーをつけていく、ということですね。記憶してもらって、そこから御嵩町に繋がっていくということだと思います。
・循環型エネルギー学習事業	
小林座長	コロナ禍のためやむを得ないと思いますが、代替講座が元々の題目からやや離れている、と感じました。
各務部長	コロナ禍において色々なことができなくなってしまった中、どうかして下川町での体験と似た学習を行い、環境意識を根付かせたいという想いから実施しました。反響は強かったと思います。
奥村委員	外国人観光客はどのようなきっかけで御嵩町を訪ねてくるのですか？
山田課長	WALK JAPAN という海外の会社の案内です。御嵩町で現地集合、中山道を歩いて上京するというコースだそうです。
奥村委員	4、5月頃が多いように感じますが・・・。
各務部長	こちらの認識だと年中それなりに通行があるな、という感じです。
長尾委員	その会社と御嵩町は交流があるのですか？ツアーに積極的に御嵩町を組み込んでもらうとか、そういった働きかけをしても良いのではないのでしょうか。
各務部長	こういったツアーの通過点にしかかなりえない、通っていく人たちがお金を落としていく環境づくりができていないところが御嵩町の課題だと思っています。
奥村委員	近所のお年寄りには少し不審がる様子もあったように思います。受け入れる地元側にももう少し周知されているとお互いに良い関係が築けるかも、と思いました。

○議事 2.	
小林座長	それでは続きまして、

	議事 2. 「令和 5 年度地方創生関連事業の実施概要」について、事務局から説明をお願いします。
安藤係長	それでは事業ごとにご説明いたします。 ～資料 3～4 に基づき説明～
小林座長	ありがとうございました。事業毎にお聞きしようと思っておりましたが時間が押してしまっているため、全体を通してご意見がありましたらよろしくをお願いします。
・全体	
長尾委員	資料に出てくる「地域課題」とは何を想定しているのでしょうか？この事業を実施しながら探していくということですか？
安藤係長	後者を想定しています。これまでは御嵩町の歴史を知る、PR することが課題解決の手がかりになると考えて僣歴会との交流機会を設けていました。しかし実際はこちらで感知できていない課題がまだまだあるのではないかと、ということで事業の中で行う地域交流の場からそれをすくい上げていきたいと思っています。
長尾委員	KPI のひとつに「解決した地域課題の件数」とありますが、これは何をもちって解決とするのでしょうか？ 例えば企業の「人材不足」という課題であれば、これを解消したら「課題が解決できた」ということになる、ということですか？
安藤係長	設定する課題の濃淡によって変わると思います。
長尾委員	そうですね。定量的にははっきりと言えるものではないので、ここの整理は難しいのかな、と感じました。
恩田委員	副業・兼業人材活用事業では企業側のニーズとしてどのような人材が求められているのでしょうか？
瀬瀬係長	お話できる範囲のものだと、新規顧客開拓の営業をかけていくためのノウハウを学びたい、新商品の開発に取り組みたい、といったもので、傾向らしきものは特になく、企業によって千差万別です。1 件の募集に対し 20 件程度の応募がきているそうです。
後藤委員	十六銀行も同じような事業をやっていますが、その中で、30 代から 40 代の大手企業営業マンからプレゼン等を学び、更にその人たちの仕事に対する熱量から刺激を得ていく、というような伴走支援型が主になってきているように思います。こういった事業は非常に良い取り組みだと思います。
小林座長	ありがとうございます。今回、デジタル田園都市国家構想交付金には残念ながら不採択、ということでしたが、この理由などは把握されているのでしょうか？

安藤係長	今回は令和 2 年度から令和 4 年度までに実施した事業を更に深化させた形で交付金事業として応募したのですが、国の側からすると「過年度に実施した事業は既に自走化できていなければいけない」というところがありまして、そこがこちらの意図とは合致しなかったということです。
小林座長	交付金の名前にも大きく「デジタル」とあります。若い世代の育成だけではなく、本来デジタルとは縁遠い世代に中学生などがボランティアとしてタブレット端末の使い方を浸透させ、遠隔医療のベースを作っていく、というようなことをしないとなかなか交付金の採択としては厳しいのかもしれないですね。
安藤係長	国がデジタルの方向に大きく舵を切っていることは事実でして、交付金の割合としてもデジタル実装の方に多く予算がついています。現在実施している事業は必要なものとして引き続き実施するのですが、時代に沿っていて且つ御嵩町らしさのある事業の展開を考える必要があるとも感じています。引き続き皆様からのご助言をいただければと思います。

○議事 3	
小林座長	それでは最後に、 議事 3. 「みたけ創生!!総合戦略(第 2 期) 令和 4 年度の効果検証」について、事務局から説明をお願いします。
安藤係長	それでは事業ごとにご説明いたします。 ～資料 5 に基づき説明～
小林座長	何かお気づきの点などありましたらお願いします。 (意見等特になし) 会議終了後でも結構ですので質問・ご意見等ありましたら事務局までお願いしたいと思います。 それでは事務局に進行を返したいと思います。

○事務局からの連絡事項～閉会	
山田課長	小林座長、進行ありがとうございました。最後に 1 点だけ、事務局から連絡事項がありますのでよろしくお願いします。
安藤係長	～政策総点検における町民・関係者等からの意見聴取を依頼～ (時間都合により、後日改めて意見をいただく)
山田課長	それでは、閉会にあたりまして、総務部長 各務よりご挨拶申し上げます。
各務部長	皆様、本日は長い時間に渡りありがとうございました。今回、人材育成という観点から沢山のご意見をいただきました。折角人材を育成しても、

	<p>外に流出してしまっは元も子もない、というのはそのとおりでして、企業ニーズ把握や若い世代の地元志向強化といった要素をしっかりと見据えながら事業を進めていく必要があるな、と思いました。冒頭、町長が申し上げた「担い手を育て、愛着と誇りを持って住み続けてもらえる御嵩町にしたい」という言葉につながってくるご意見だと思います。</p> <p>また、教員に対するアプローチという視点のご提案もいただきました。行政にとってなかなか強化し辛い部分だと思いますが、こういった部分も踏まえて今後の事業を進めていきたいと思っています。どうもありがとうございました。</p>
山田課長	<p>次回の会議は12月頃を予定しております。事業実施の進捗等についてご報告させていただく予定です。日程については改めて案内させていただきます。本日は誠にありがとうございました。</p>

(12:15 閉会)